

7 脳神経内科



診療科の体制

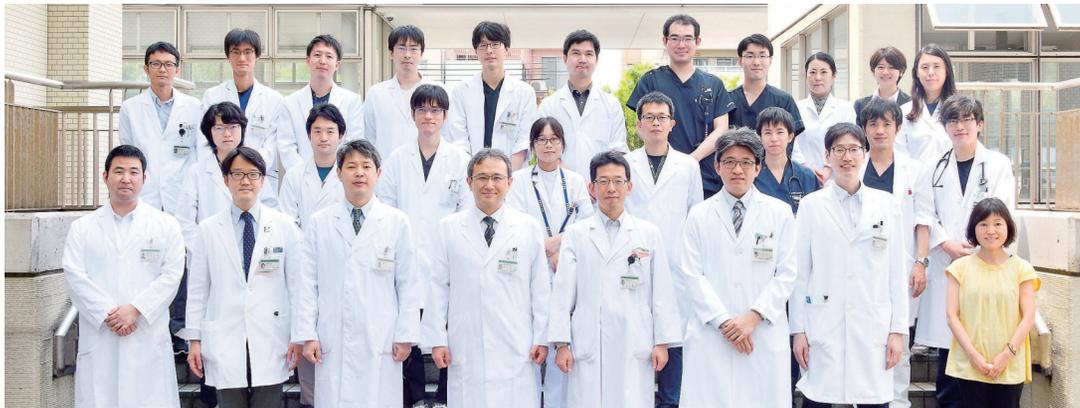
私たちは日本神経学会専門医 22 名であらゆる神経疾患に対応できる体制をとっており、県内外の広い地域から難治性疾患や診断困難な症例を受け入れています。初診外来は神経学的な評価に十分な時間を確保するため、完全予約制とさせて頂いております。緊急性のある症例に関しては個別対応を致しますので、下記までご連絡ください。

診療内容

脳神経内科が対象とする疾患は、パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症などに代表される神経難病から、超高齢社会となり増加している脳卒中・認知症・てんかんといった common disease まで幅広く、脳・脊髄から末梢神経・筋の病気まで、いわば全身を守備範囲としています。スタッフの専門性を活かして世界水準の診療体制の構築をめざし、安全な高度医療を提供いたします。症状としては、筋力低下、振戦、複視、眼瞼下垂、構音障害、感覚の異常、ふらつき、意識消失、高次脳機能障害、けいれん、頭痛などでお困りの際にはご相談ください。

入院にて施行している新たな検査・治療

- 長時間ビデオ脳波モニタリングによるてんかんの診断・てんかん外科の術前評価
- パーキンソン病に対する LCIG（レボドパカルビドパゲル持続的経腸投与療法）



地域医療機関の先生方へ

- ・ 認知症（軽症例）を対象にした治験の被検者を募集しています。
- ・ てんかんの的確な診断・治療や難治症例の術前評価を積極的に行っていますので、若年・高齢発症問わずご紹介ください。
- ・ これら患者さんのご紹介は、患者支援センター地域連携部門宛て FAX 用紙のメモリー外来（脳神経内科）やてんかん外来にチェックをしてご依頼ください。

- 脊髄性筋萎縮症に対するアンチセンス核酸医薬（ヌシネルセン）髄注療法
- 筋萎縮性側索硬化症（ALS）に対するエダラボン静注療法（初回導入）
- 免疫介在性ニューロパチーの進行抑制を目的とした免疫グロブリン製剤の慢性静注療法、皮下注療法
- 多発性硬化症（MS）や視神経脊髄炎（NMO）に対する疾患修飾療法（ナタリズマブ、サトラリズマブなど）
- 重症筋無力症（MG）の難治例に対する疾患修飾療法（エクリズマブ）
- 視神経脊髄炎・重症筋無力症などの免疫性神経疾患に対する血液浄化療法

その他、学会等で効果が確認された治療法に積極的に取り組んでいます。

適応を検討させて頂く場合、まずは初診外来までご紹介ください。

専門外来など

どの外来も脳神経内科全般の診療に対応します。以下の専門分野の診療も行っています。

- てんかん外来 松本、十河、岡山
- 認知症外来 古和、関口、関、岡山
- ボトックス治療外来 担当医
- 免疫性神経疾患外来 千原
- 神経変性疾患外来 上田
- くびさがり外来 関口

連絡先

担当医	上田 健博（外来医長）
TEL	078-382-5885（医局） 078-382-5264（予約専用）
受付時間	平日 8：30～17：00

※脳神経内科の初診外来は完全予約制です。恐れ入りますが、紹介状をご用意いただき、FAX 予約をお願いいたします。ただし緊急性がある場合はこの限りではありませんので、お電話で別途ご連絡ください。